

1. はじめに

11 月に入り、紅葉が秋の終わりを告げ、冬を感じるようになった。8 月に RHIT に来たときは、湖の周りの木々が青々としていたが、今では数枚の葉を残す程度となっている。四季の移ろいを感じると共に、これまであった留学での経験を思い起こしている。11 月中旬には、秋学期が終わり、冬学期までの間に 10 日間ほどの休みがあった。ほとんどの学生は、実家に戻り Thanksgiving (感謝祭) を家族と共に過ごすようだ。



図 1. 10 月下旬から 11 月下旬にかけての RHIT の様子

2. 授業

RHIT では、各学期が 10 週間の講義と最終週にあるテスト週間の合計 11 週間から成り立っている。今月は最終テストやプレゼンなどが行われる。最終テストは、1 教科につき約 1 時間半から 2 時間と普段のテストよりも、時間が多めに設けられてる。多くの学生が至る所で、プレゼンについて話し合ったり、一生懸命勉強している姿がとても印象的であった。

2.1. BIO110: Cell structure and Function

DNA における転写、翻訳、複製、遺伝子発現といった遺伝子分野について学んだ。遺伝子の組み換え頻度などの情報から、各遺伝子型における子孫の割合や、それを基に遺伝子マップを作成する課題があったが、自分も含め多くの生徒が苦戦していた。故に、オフィスアワーで教授に質問したり、ラーニングセンター行きチューターと共に問題を解くなどして、自分の苦手分野の克服に取り組んだ。また担当の Hill 教授のご考慮で、最終テストでは他の学生よりも多くテスト時間設けていただいた。来学期は、レベルが 1 つ上のクラスを履修する予定なので、一層の専門知識の習得に励んでいきたい。

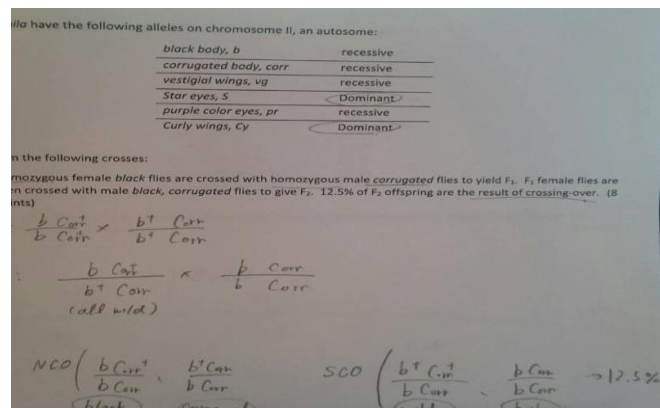


図 2. 実際のテストの一部

## 2.2. ESL101: Reading and Writing

前回に引き続き、エッセイや論文における、論文や新聞からの引用やページ末における参考文献の表記の仕方について学んだ。アメリカには、参考文献などを載せる際、規定スタイルがあり、今回は、APA (American Psychological Association) スタイルについて学んだ。このスタイルは、一般的に社会科学やコミュニケーションに関する論文を書く際に用いられ、筆者、タイトル、ページなどの情報の書き方が細かく決まっている。また、Argumentative essay: 議論型主張文についての効果的な書き方についても学んだ。これは、エッセイ中に Refutation: 反論を入れることで、より自分の主張を Conceding: 認めてもらうような文章書くというものであった。自分の主張の優位性を示すには、主張の根拠を説明できることはもちろん、反対意見についての弱点なども考慮しなければならず、なかなか筋の通った主張文を書くことが難しかった。また、議題や使われる単語も難しくなっていくため、適切な表現ができない時があった。来学期は、Reading and Writing のクラスは取らないため、チューター制度を利用しながら、継続的に文章の書き方や文法、表現について気を付けていきたいと思う。

## 2.3. ESL111: Listening and Speaking

今月は、TED talk を模した 10 分程度の最終プレゼンテーションがあり、そのための準備や、実際に複数の TED talk を視聴し、その内容をまとめたり、どのように図表やデータ話せば効果的なのか、といったことを分析する課題が多かった。私は、RHIT 内にある Radio club について、先月行った学生に対しての Survey やクラブのアドバイザーへの Interview を基に、パワーポイントを作成しプレゼンテーションを行った。未だに、原稿を暗記し、また重要な部分を読みながら発表してしまったため、忘れてしまった部分やスライド間の繋ぎなどのをうまく話すことができなかった。このことから、自分の言いたいことを瞬時に英語にする、output するのに時間がかかるといった自分の弱点を再認識することができた。今後は、日常会話や授業で自分の意見を言う際に、頭の中で考えるスピードを意識して話していきたいと思う。

## 2.4. CHEM330: Biochemistry I

解糖系についての流れや、各酵素についての働きと役割について学んだ。BIO110 や以前工大で学んだ生化学の分野が中心となっているが、授業のスピードや会話はかなり速く、理解できない時が多々ある。しかしながら、担当教授の Brandt 教授は、講義の中で例を使ったり、身近な現象を絡めて、話を進めてくれるので面白い授業である。来学期は、Biochemistry II を正式に履修する予定なので、授業のスピードについていけるようしっかりと予習、復習していきたい。

## 2.5. 冬学期の授業

秋学期が終了し、約 10 日間の休み、そして冬学期が始まる。以下に、冬学期に履修する予定の科目と時間割を示す。

- BIO220 (Microbiology): 微生物における、進化、細胞の構造および機能、代謝経路、遺伝学とその影響について、講義、実験、ディスカッションを通して学ぶ。
- CHEM331 (Biochemistry II): Biochemistry I に引き続き、人体における代謝経路について学ぶ。
- GS384 (Japanese Society): 日本の社会を文化、政治、地理などの視点から学ぶ。
- ESL111 (Listening & Speaking): 前回と同じく、英語を第 2 言語とする人のための授業である。

表 1. 冬学期の時間割

TERM GRID	1 8:05	2 9:00	3 9:55	4 10:50	5 11:45	6 12:40	7 1:35	8 2:30	9 3:25	10 4:20
MONDAY				CHEM331-01 in O233	GS384-01 in O233	BIO220-01 in M103	ESL111-01 in A220			
TUESDAY	BIO220-01 in O107	BIO220-01 in O107	BIO220-01 in O107	CHEM331-01 in O233	GS384-01 in O233	BIO220-01 in M103				
WEDNESDAY							ESL111-01 in A220	ESL111-01 in A220		
THURSDAY				CHEM331-01 in O233	GS384-01 in O233	BIO220-01 in M103	ESL111-01 in A220			
FRIDAY				CHEM331-01 in O233	GS384-01 in O233					
SATURDAY										

### 3. イベント

#### 3.1. Haunted Trail

先月にあったハロウィーンのイベントの続きであり、友人と共に参加した。寮の近くにある、林にハロウィーンの飾りつけを行い、“お化け屋敷”の様にしたものであり、日本の学祭で行われるような、手作りのお化け屋敷のような雰囲気であった。日本のお化け屋敷と違い、チェーンソー(偽物)を持って追いかけてくるなど、とてもアメリカらしく面白かった。

#### 3.2. Thanksgiving

Thanksgiving(感謝祭)とは、アメリカの祝日の一つであり、毎年11月の第4木曜日に行われる。昔は宗教的な意味合いもあったが、現代の感謝祭は、たくさんの親族や友人での食事会、また家族が集まる行事のひとつとして位置づけられている。この期間には、多くの学生が地元に戻るため、寮内には殆ど人がいなくなる。そのため、友人と、ワシントン D.C. に旅行に出かけた。

ワシントン D.C. は、アメリカの首都であり、アメリカについて多方面から学べる施設が多くある。ホワイトハウス、国会議事堂、最高裁判所などの政治的な施設が多く集まっているほか、スミソニアン博物館といった、文化や歴史面での施設も充実している。これらの施設を通して、アメリカの建国の歴史や移り変わり、人々がどのようにアメリカで生活してきたかなどを、展示品などを通して学ぶことができた。ワシントン D.C. のポトマック川沿いには、日本から寄贈された桜が約2,000本ほど植えられており、日本との関わりの深い場所である。また、この旅行期間中には、第二次大戦中に起こったナチスによるホロコーストについて取り扱った博物館にも訪れた。その後、友人と「第三次世界大戦は、起きてしまうのか? 平和とは何か?」など話をした。日本人として、とても複雑な気持ちとなったが、今まで目を向けてこなかった歴史について、また人々が第二次世界大戦や世界中の戦争に対してどのように感じているかなど、英語で話し合うことができ、また意見を共有することができたので、とても良い機会となった。



図3. ホワイトハウス

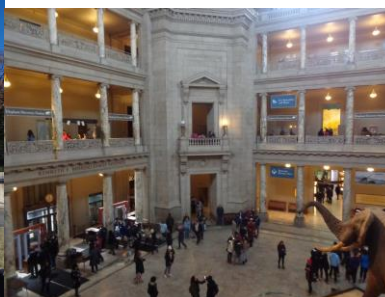


図4. 国立自然史博物館



図5. ポトマック川沿い



図6. 国立アメリカ歴史博物館

#### 4. 最後に

約 11 週間にわたる秋学期が終わり、振り返っていみると、とても短く感じる。また、同じ寮のドイツからの交換留学生が留学期間を終え帰ってしまった。旅行に行ったり、学食で食事をしたりと、共に過ごす時間が多かったので、とても寂しく感じる。また、彼らとの会話の中でも、自分が比較的寡黙であったため、もっと積極的に会話に参加していれば、と後悔している。

留学期間もあと残すところ3か月をとなった。未だに、Native の会話には、ついていけないことが多々あったり、授業の課題に苦しめられるときも多くある。しかしながら、苦しいことだけではなく、クラブ活動や友達との会話など多くの楽しいこともある。限られた時間の中で、より一層多くのことを経験し、吸収していきたいと思う。以上で 11 月の報告書とする。